

小児の健康と看護の役割に関する看護学生の認識

—看護系大学の小児看護学実習後の調査—

上山 和子*・片山 陽子

新見公立大学看護学部

(2013年11月13日受理)

本研究は、小児看護学実習での看護学生の小児の健康と看護の役割に対する認識について明らかにし、今後の実習指導に役立てることを目的とした。質的帰納的研究方法である。その結果、2コアカテゴリー、6カテゴリー、22サブカテゴリー、643コードを抽出した。コアカテゴリーは、【小児の成長発達を支える看護】【健康問題に対応した小児看護の役割】であった。カテゴリーは、『小児の成長発達への支援』『小児の健康の維持増進への看護』『小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性』『小児の疾病の経過に沿った看護』『疾病による小児及び家族への影響を最小限にする看護』『健康障害の状況に応じた小児看護の役割』であった。

以上より、看護学生は、小児看護の役割として小児の成長・発達の支援を通じた健康管理と疾病をもつ小児への看護について認識していることが明らかとなった。

(キーワード) 看護基礎教育, 学士課程, 小児看護学実習, 小児の健康, 小児看護の役割

はじめに

看護基礎教育課程では、ライフサイクルに応じた健康支援及び健康問題をもつ人々への看護について学んでいく。小児期は、ライフサイクルの中で、生涯にわたる健康の基盤づくりの時期で日々成長発達しており、発達過程に応じた健康支援が必要である。小児看護の役割としては、成長発達への支援と併せて健康問題が生じた場合に苦痛を緩和し症状の軽減を図り、安全安楽を保障しながら成長発達への影響を最小限にする援助が求められる。

先行研究では、3年制課程の看護学生(以下、学生とする)の子どもの健康に対する認識については報告されている¹⁾。学士課程では実習形態の報告はみられるも²⁾、学生の小児の健康の認識に対する報告は少ない。

また、小児の健康管理は、自己管理ができる年齢に達するまで家族に委ねられる。特に小児看護領域では、小児だけでなく家族へのアプローチも重要な役割として捉えられている。小児看護の対象を認識し、現代社会における家族機能の安定を図る援助も求められる。

以上の看護基礎教育課程における小児看護学の背景を踏まえながら、A大学は初めて学士課程における小児看護学実習として、小児の健康支援及び健康問題をもつ小児及び家族への援助について実習を実施した。今回、学生の小児の健康に対する学びや学習課題を振り返り指導方法を検討することは、小児看護学の実習内容の質の向上に繋がると考える。すなわち、小児看護学実習での学

生の小児の健康と看護の役割に対する認識について明らかにし、今後の実習指導に役立てることを研究の目的とする。

1. 研究方法

1) 研究対象

A大学看護学部看護学科4年次生で、小児看護学実習に該当する母子看護学実習B(小児)修了者63名

2) 研究方法

母子看護学実習B(小児)修了後、実習総括記録の小児の健康と看護の役割の項目について自由記載を小児看護学の教員2名で内容分析し、学びや学習課題を抽出する。そして、質的・帰納的に分析後、カテゴリー化する。

3) 倫理的配慮

看護学部4年生に本研究に関する説明書を配布する。説明の文書には、研究目的、匿名性が完全に確保されていること、参加は自由意志で拒否による不利益は全くないこと、成績には不利益を生じないこと、同意が得られない場合は、データから外すことを記載する。

2. 母子看護学実習B(小児)の実習目的及び概要³⁾

1) 実習目的

小児の発達段階の特徴を知り、健康な小児の養護と健康上の諸問題をもつ小児への看護実践をとおり、各健康レベルの小児の健康問題をとらえる能力と態度を養う。

*連絡先: 上山和子 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

2) 実習目標

(1) 健康な小児の発達段階の特徴を知り、その発達段階に応じた保育的な働きかけを理解する。

- ①小児の身体的発育・運動機能・情緒・社会性・言語の発達の実際が理解できる。
- ②基本的生活習慣の自立への援助について理解できる。
- ③小児の発達に応じた遊びが理解できる。
- ④小児の安全教育・安全管理が理解できる。
- ⑤小児及び家族について関係性が理解できる

(2) 各期の発達段階別の健康障害をもつ小児及び家族の看護問題を捉え、援助の必要性について理解する。

- ①対象者は、小児家族であることが理解できる。
- ②健康障害が小児及び家族に与える影響について理解できる。
- ③健康障害をもつ小児及び家族から得られた情報をアセスメントし、看護問題を捉えることができる。
- ④健康障害をもつ小児及び家族に対して必要な看護援助を立案できる。
- ⑤健康障害をもつ小児及び家族に対して必要な看護援助を実践し、評価・考察できる。

(3) 小児の保健・医療・福祉・教育について理解し、幅広く健康問題を捉え、小児看護の役割を理解する。

- ①乳幼児健診・育児相談に参加し、育児指導や疾病予防について学び、個々の小児と家族への指導のあり方が理解できる。
- ②急性期の小児に対する看護と家庭療養に向けた指導のあり方が理解できる。
- ③慢性期の小児に対する継続看護の必要性が理解できる。
- ④小児に関わる保健・医療・福祉・教育チームにおける連携及び成育に関する小児の役割が理解できる。

⑤小児の保健・医療・福祉・教育をとおり、子ども観を深めることができる。

3) 学習構造図

小児看護の対象となる小児及び家族を基に、基盤となる各発達期の理解、保育所実習にて健康な小児の理解、病院実習にて健康の維持・増進、健康に問題をもつ小児の看護を学習し、小児期の健康問題を捉え、問題解決を図る看護の役割を学習する(図1)。

4) 小児看護領域でとくに留意すべき子どもの権利と必要な看護行為(日本看護協会 1999)。

- ①説明と同意、②最小限の侵襲、③プライバシーの保護、④抑制と拘束、⑤意志の伝達、⑥家族からの分離の禁止、⑦教育・遊びの機会の保証、⑧保護者の責任、⑨平等な医療を受ける

5) 実習方法

実習内容は、保育所実習と病院実習で構成する。前週に学内において事前オリエンテーション、バイタルサイン測定、身体計測やベッド柵の取り扱いなどの安全対策について学内演習を行う(表1)。

表1 母子看護学実習B(小児)

| | | | *前週に学内において事前オリエンテーション・学内演習 実習方法及び内容 |
|----|---|----|--|
| 1週 | 月 | 実習 | 保育所実習：オリエンテーション |
| | 火 | 実習 | 保育所実習 |
| | 水 | 実習 | 保育所実習 |
| | 木 | 実習 | 病院実習：オリエンテーション |
| | 金 | 学内 | 学内カンファレンス |
| 2週 | 月 | 実習 | 病院実習 |
| | 火 | 実習 | 病院実習 |
| | 水 | 実習 | 病院実習 |
| | 木 | 実習 | 病院実習 |
| | 金 | 学内 | 学内カンファレンス |



図1 母子看護学実習B(小児)学習構造図

3. 結果

1) 小児の健康と看護の役割の記述内容の構成

実習総括記録から643の記述が抽出され、2コアカテゴリ、6カテゴリ、22サブカテゴリに分類された(表2・3)。

以下、【 】コアカテゴリ、『 』カテゴリ、「 」サブカテゴリ、< >コードで示す。

コアカテゴリは、【小児の成長発達を支える看護】
【健康問題に対応した小児看護の役割】であった。カテゴリは『小児の成長発達への支援』『子どもの健康の維持増進への看』『小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性』『疾病による小児及び家族への影響を最小限にする看護』『小児の疾病の経過に沿った看護』『健康障害の状況に応じた小児看護の役割』であった。

表2 小児看護学実習における小児の健康と看護の役割に関する学生の認識(1)

| コアカテゴリ | カテゴリ | サブカテゴリ |
|-------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 小児への成長発達を支える看護 | 小児の成長発達への支援 | 子どもの成長発達に向けた援助 |
| | | 子どもの健康を護るのは周囲の大人の役割 |
| | | 子どもの安全に対する看護 |
| 小児の健康の維持増進への看護 | 小児の健康の維持増進への看護 | 家族の症状に対する気づきを大切に |
| | | 子どもの健康管理の重要性 |
| | | 感染症の予防及び管理 |
| 小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性 | 小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性 | 子どもの訴えの特徴を知る |
| | | 子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶ |

2) 小児の成長発達を支える看護

【小児の成長発達を支える看護】では、『小児の成長発達への支援』『子どもの健康の維持増進への看護』『小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性』の3つのカテゴリで構成されていた。

【小児の成長発達への支援】では、「子どもの成長発達に向けた援助」「子どもの健康を護るのは周囲の大人の役割」「小児の安全に対する看護」の3つのサブカテゴリで構成されていた。特徴的なコードとして「子どもの成長発達に向けた援助」では、<各時期の発達課題が達成できるよう大人は支援していく必要がある>、「子どもの健康を護るのは周囲の大人の役割」では、<子どもの健康は、周囲の大人に護られていると感じた>、「小児の安全に対する看護」では、<子どもの安全管理を行い、家族にも気をつけるよう指導する>など成長発達に応じた支援内容を挙げていた。

【子どもの健康の維持増進への看護】では、「家族の症状に対する気づきを大切に」「子どもの健康管理の重要性」「感染症の予防・管理」の3つのサブカテゴリで構成されていた。特徴的なコードとして「家族の症状に対する気づきを大切に」では、<子どもの様子や変化を一番理解し、気づくのは母親である>、「子どもの健康管理の重要性」では、<子どもの健康を保つためには予防接種の情報提供が必要>、「感染症の予防・管理」では、<子どもは風邪に罹りやすく、手洗いをし、感染予防に努めることが重要>など日々の日常生活の中での健康管理について挙げていた。

【小児看護におけるコミュニケーション能力の必要性】では、「子どもの訴えの特徴を知る」「子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶ」の2つのサブカテゴリで構成されていた。特徴的なコードとして「子どもの訴えの特徴を知る」では、<<自分の気持ちを言葉で表現できない>、「子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶ」では、<子どもに合わせた接し方、話し方を学ぶ必要が

表3 小児看護学実習における小児の健康と看護の役割に関する学生の認識(2)

| コアカテゴリ | カテゴリ | サブカテゴリ |
|------------------|--------------------|--------------------------|
| 健康問題に対応した小児看護の役割 | 小児の疾病の経過に沿った看護 | 小児看護の対象の理解 |
| | | 家族看護の重要性 |
| | | 小児の観察方法の習得 |
| 健康問題に対応した小児看護の役割 | 小児の疾病の経過に沿った看護 | 小児は症状の展開が早い |
| | | 疾病による小児及び家族への影響を最小限にする看護 |
| | | 疾病による小児及び家族への影響 |
| 健康問題に対応した小児看護の役割 | 小児の疾病の経過に沿った看護 | 入院時の子どもの反応の特徴 |
| | | 疾病による親の不安 |
| | | 不安や恐怖心を軽減する看護 |
| 健康問題に対応した小児看護の役割 | 健康障害の状況に応じた小児看護の役割 | 小児の健康回復に対応した小児看護 |
| | | 小児の疾病の経過の特徴 |
| | | 療養に向けた小児外来看護 |
| 健康問題に対応した小児看護の役割 | 健康障害の状況に応じた小児看護の役割 | 小児外来・小児病棟の環境の整備 |
| | | 他職種との連携の必要性 |
| | | 入院中の遊びへの援助 |

ある>など発達期の特徴に対する困難性を挙げていた。

3. 健康問題に対応した小児看護の役割

小児看護の役割では、『小児の疾病の経過に沿った看護』『疾病による小児及び家族の影響を最小限にする看護』『健康障害の状況に応じた小児看護の役割』の3つのカテゴリで構成されていた。

【小児の疾病の経過に沿った看護】では、「小児看護の対象の理解」「家族看護の重要性」「小児の観察方法の習得」「小児は症状の展開が早い」の4つのサブカテゴリで構成されていた。特徴的なコードとして「小児看護の対象の理解」では、<小児看護の対象は、小児だけでなく家族も含まれている>、「家族看護の重要性」では、<小児の入院では、家族のサポートも重要である>、「小児の観察方法の習得」では、<患児の背景全体を把握する必要がある>、「小児は症状の展開が早い」では、<症状の展開が早いのは小児の特徴と感じた>など小児看護の対象や症状の特徴を挙げていた。

【疾病による小児及び家族の影響を最小限にする看護】では、「疾病による小児及び家族への影響」「入院時の子どもの反応の特徴」「疾病による親の不安」「不安や恐怖心を軽減する看護」の4つのサブカテゴリで構成されていた。特徴的なコードとして「疾病による小児及び家族への影響」では、<小児にとって入院は発達段階などの成長を阻害する要因となりやすい>、「入院時の子どもの反応の特徴」では、<処置を拒否する子どもなど医療行為に対する受け入れは様々である>、「疾病による親の不安」では、<子どもが病気になると母親がとても不安になる>、「不安や恐怖心を軽減する看護」では、<小児看護では、処置などによる小児の不安・恐怖を軽減することが大切である>など、治療や処置時の看護の重要性を挙げていた。

【健康障害の状況に応じた小児看護の役割】では、「小児の健康回復に対応した小児看護」「小児の疾病の経過の特

徴」「療養に向けて小児外来看護」「小児外来・小児病棟の環境の特徴」「他職種との連携の必要性」「入院中の遊びへの援助」の6つのサブカテゴリーで構成されていた。特徴的なコードとして「小児の健康回復に対応した小児看護」では、〈看護師は、患児が早く元の生活にもどれるようケアすることが役割として大切〉、「小児の疾病の経過の特徴」では、〈小児は重症化しやすい〉、「療養に向けた小児外来看護」では、〈外来の場合は、直ぐに家に帰るので家庭療養について説明したり、指導が必要〉、「小児外来・小児病棟の環境の整備」では、〈カテーンがキャラクターなど子どもが安心できる空間づくりをしている〉、「他職種との連携の必要性」では、〈他職との連携が重要である〉、「入院中の遊びへの援助」では、〈ストレスを軽減するために遊びを提供することが有効〉など小児の療養生活に対する看護を挙げていた。

4. 考察

1) 小児の健康と看護の役割についての学習内容の分析

学生は、小児看護学実習を修了し実習目標である小児の成長発達を理解、及び健康障害をもつ小児及び家族への援助について学習目標を達成できている。

特に小児の疾病の特徴として経過が早く、併せて回復過程も早いため、観察の重要性を認識できている。小児外来及び病棟での実習では、ほとんどが呼吸器疾患や消化器疾患などの急性期の疾患であり、短期間の入院で退院していく。そのため、疾病の経過を知り、症状の経過に沿って看護する急性期看護の特徴を学べている。また、学生は、入院前の症状の発症に伴う家族の負担にも視点があり、家族看護の大切さを認識できている。

さらに小児医療・小児看護では、疾病による環境変化に伴う看護としては、小児外来や病棟などの施設を整える看護や子どもの恐怖心を軽減する役割を学んでいる。現在の小児医療では、子どもへの処置等に対する苦痛の軽減、処置に対する説明など子どもの発達を考慮した医療・看護に取り組んでおり、今後さらに施設を非日常的な環境から日常的な環境に移行し、子どもの恐怖心を軽減する取り組みは、より検討していく必要がある。

加えて感染症に対する看護は、保育所、小児外来、小児病棟の共通の課題であり、手洗いなどの基本的感染防御に対する取り組みを徹底する必要がある。実習場所の共通課題である小児の安全を守る看護の必要性についても発達期の特徴を踏まえて学習内容として繰り返し、認識する体験を持てるよう実習内容を工夫する必要がある。

一方で、小児から症状についての情報や母親からの情報を引出し、アセスメントしていくことの困難さも認識している。子どもとのコミュニケーションの取り方については、病院実習前の保育所実習で体験するも習得する

までには実習期間が短く、理解し試みる段階で保育所実習が終了している現状がある。そのため、家族も含めた小児とのコミュニケーションの取り方について病院実習のオリエンテーションでは、丁寧に対応について教示する必要がある。宮谷らは、実習の学習効果を上げるために実習前から実習中を通して個別指導、振り返り学習などのフォローアップの重要性を挙げている⁴⁾。このことは、小児の観察力と併せてアセスメント能力を高めるための基盤になると考える。

2) 小児看護学実習の課題と今後の実習指導への示唆

今回、学士課程における小児看護学実習の小児の健康と看護の役割についての学生の認識を分析した。学生は、実習目標である発達段階の理解と成長発達に応じた支援、健康障害をもつ小児及び家族の看護問題解決に向けた看護援助の必要性の理解、小児の保健・医療・福祉・教育における連携などの理解は、ほぼ達成できている。

一方で学生は、対象である小児及び家族とのコミュニケーションの取り方、看護情報を引き出すためのコミュニケーション能力の向上については、困難を感じている。背景として小児の入院期間の短縮化に伴い、疾病の経過に沿ってゆっくり関わるのが難しい小児医療の現状があり、事前演習で具体的に内容を強化する項目と考える。特に乳児期、幼児期、学童期など対象年齢に沿ってコミュニケーションをとりながら情報を引き出す演習としてシミュレーションモデルなどを活用し展開していきたいと考える。

以上より、今後の看護基礎教育課程における小児看護学実習においては、次世代を育てるという視点を明確にし⁵⁾、子どもの成長発達への支援、様々な健康レベルにある小児に及び家族に対する看護を学ぶ機会を体験できるよう実習の指導方法・内容をさらに検討していきたい。

謝辞

本研究に協力をいただいたA大学看護学部の学生に感謝致します。

文献

- 1) 上山和子：看護学生の子どもの健康に対する認識(1) 小児看護学実習修了後の調査. 新見公立短期大学紀要, 22, 73-80, 2001.
- 2) 宮谷恵, 大見サキエ, 宮城島恭子：教員からみた学士課程における小児看護学実習の現状. 日本小児看護学会誌, 22(2), 68-74, 2013.
- 3) 新見公立大学看護学部看護学科：平成24年度新見公立大学看護学臨地実習要項, 2012.

4) 前掲書, 2), 68-74

5) 杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学第4版増補版.
医学書院, 247-296, 2009.

**Students' recognition of children's health and nursing roles
- Studies on pediatric nursing training programs -**

Kazuko Ueyama, Yoko Katayama

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

The purpose of this study was to identify nursing students' recognition of children's health and nursing roles in pediatric nursing training programs and to obtain their future training methods. This study was conducted using qualitative and inductive approach. As a result, 2 core categories, 6 categories, 21 subcategories, and 643 codes were extracted. The core categories consisted of nursing practice that supports children's growth and development and the roles of pediatric nursing based on health problems. The six categories were 1) support for children's growth and development, 2) nursing practice to maintain and improve children's health, 3) the need for communication skills in pediatric nursing, 4) nursing practice that reduces negative effects of diseases on children and their families, 5) nursing practice that is performed based on disease progression, and 6) the roles of pediatric nursing for children's disorders.

These results revealed that nursing students well recognize the roles of pediatric nursing, the management of children's health by supporting their growth and development, and nursing care for children with disorders.

Key words: Basic nursing education, undergraduate program, pediatric nursing training, children's health, roles of pediatric nursing

